

# 令和5年度 公共施設マネジメントの進捗状況について

日光市財務部資産経営課

公共施設マネジメント係



# 本日の流れ

---

## 1. 公共施設マネジメントとは

## 2. 令和5年度の取り組み

◎公共施設等に関する民間提案制度

○民間提案

○ネーミングライツ

## 3. 昨年度以前より継続して行われている取り組み

◎文化会館の集約

◎藤原総合文化会館検討専門部会での検討

◎中央公民館の移転

## 4. 今後の展開

◎公共施設マネジメント計画実行計画(第2期)の策定

◎市有財産ポテンシャル調査の実施

# 公共施設マネジメントとは



# 公共施設マネジメントとは ～日光市の公共施設の現状と課題～

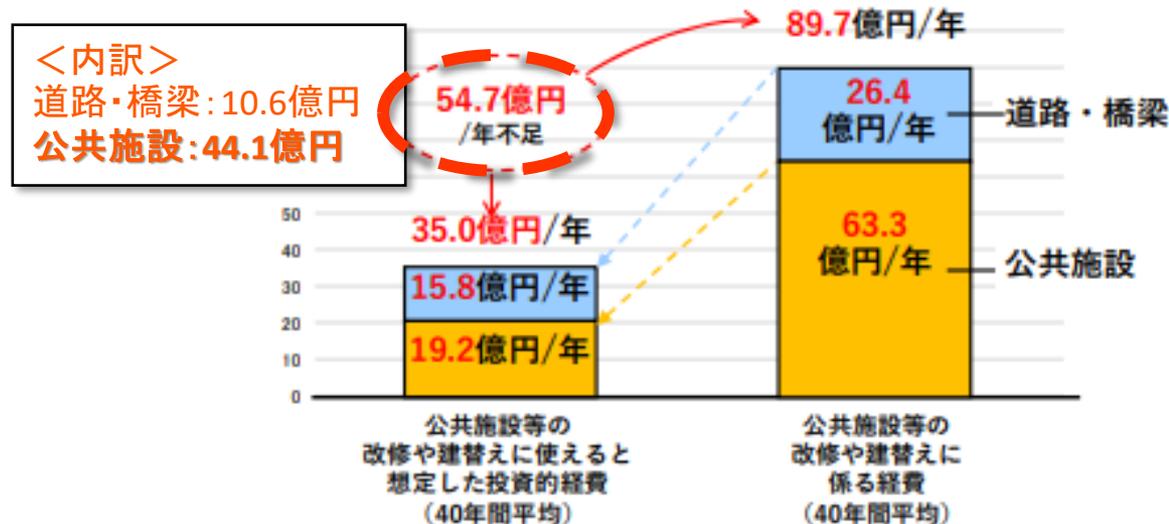
## <現状>

- ・日光市民1人あたりが保有する公共施設の延床面積は6.8㎡であり、全国平均3.67㎡/人の約1.9倍
- ・令和2年末時点において、市内公共施設の半数以上は築30年以上が経過

## <課題>

- ・現在の公共施設すべてを維持更新し続けるための費用は63.3億円  
一方、市の財政状況に鑑み実際に使える金額は年額19.2億円  
(今後40年間平均)

⇒ 公共施設の維持更新費  
として44.1億円/年不足



# 公共施設マネジメントとは ～施設整備基本方針～

---

## 方針1 コストを圧縮する

～民間の資金やノウハウの活用、施設の利活用等による経営の効率化～

## 方針2 ハコモノを減らす

～重複・類似施設の集約化、既存施設の多機能化等による  
施設コンパクト化の推進～

## 方針3 サービスの最適化を図る

～広大な市域を持つ日光市の特性や今後の人口動態に配慮した施設再編～

## 方針4 既存施設を長く利用する

～施設の故障等を未然に防ぐ予防保全対応、新しい時代の整備水準を満たす  
施設へ更新への更新～

# 公共施設マネジメントとは

---

真に必要な公共サービスを将来にわたり提供し続けるために、

市の人口、財政規模に応じた

- ・公共施設の総量・維持管理コストの最適化
- ・人口動態に応じた施設再編
- ・予防保全対応による既存施設の長期利用  
(⇒公共施設マネジメント)

が必要となる。

**総量縮減・コスト削減を図る + 長く利用する施設は利用者の満足度向上を図る**

**市民が満足して笑顔で暮らせる未来のまちづくりに繋げる！**

# 令和5年度の取り組み



# ○公共施設の有効活用による財政コストの低減及び市民サービスの向上 公共施設等に関する民間提案制度

- ・民間事業者より公共施設の利活用に貢献する提案を求め、事業化する制度
- ・提案内容は財政コストの軽減、または市民サービスの向上に資することなどが条件

<想定される提案内容>

未利用地・低利用施設の利活用、ネーミングライツなど

## 期待される効果

- ・公共施設の有効活用による市民サービスの向上や地域活性化
- ・公共施設維持管理コストの低減
- ・新たな財源の確保(賃借料や収益に応じた納付金)

# ○公共施設の有効活用による財政コストの低減及び市民サービスの向上

## 公共施設等に関する民間提案制度

### ～令和5年度の提案採択内容～

#### 高徳中岩河川公園を活用した キャンプ場事業

提案者: 東武鉄道株式会社  
提案採択月: 令和5年6月  
事業開始予定月: 令和6年4月



#### 施設の現状

- ・少子化の影響などにより利用者数が減少。
- ・施設の維持管理費として年間約150万円の支出。

#### 期待される効果

- ・「市民の余暇活動の向上」及び「観光事業の推進」が図られる。
- ・観光振興の視点から、周辺への波及効果が期待できる。
- ・市が負担する公園の維持管理費が軽減される。
- ・設備投資等について、市の新たな財政負担が生じない。

# ○公共施設の有効活用による財政コストの低減及び市民サービスの向上 公共施設等に関する民間提案制度 ～令和5年度の提案採択内容～

## 旧山久保山村広場を活用した キャンプ場事業

### 施設の現状

小学校跡地に  
整備された広場であるが、利用されておらず、  
広場内のトイレも故障している状況。

提案者：株式会社GLYPH  
事業採択月：令和6年1月  
事業開始予定月：令和6年4月



旧山久保山村広場全体図及び整備イメージ

### 期待される効果

- ・事業実施による、施設周辺の鳥獣被害の軽減及び自然資源の維持保全。
- ・地域と連携した事業の創出による地域活性化。
- ・貸付料等の新たな財源の確保。



キャンプ場イメージ 10  
※事業者提供写真

# ○公共施設の有効活用による財政コストの低減及び市民サービスの向上

## 公共施設等に関する民間提案制度

### ～ネーミングライツ事業～

ネーミングライツ事業とは  
市有施設に愛称を命名する権利を民間事業者等に付与し、  
その対価を得る事業

#### 市のメリット

- ・ネーミングライツ料(年額50万円以上)を徴収することにより施設維持管理のための財源を確保できる

#### 事業者のメリット

- ・愛称に事業者名等を含むことで広告効果及び、企業等のイメージアップにつながる

# ○公共施設の有効活用による財政コストの低減及び市民サービスの向上 公共施設等に関する民間提案制度 ～ネーミングライツ事業～

令和5年度には2件の応募が採択され、今後事業化が予定

対象施設	応募事業者	愛称	事業開始予定日
大沢体育館	株式会社サンコー	サンコー体育館	令和6年4月1日
今市運動公園	河淳株式会社	KAWAJUN 今市スポーツパーク	令和6年4月1日



大沢体育館



今市運動公園

# 昨年度以前より継続して 行われている取り組み



# ○重複施設の集約化 文化会館の集約

市内3つの文化会館(今市、日光、藤原)については、老朽度や耐震性などを考慮し、1館に集約することを前提に検討

日光市文化会館等あり方検討市民委員会や議会の意見を踏まえながら  
検討

<整備検討の概要(現在検討を行っていること)>

## ○候補地の選定

- ・平ヶ崎(今市文化会館解体後跡地)
  - ・七里地内市有地
- それぞれの候補地におけるメリット・デメリットに加えて、市の活性化につながるまちづくりの視点などを踏まえて検討

## ○複合機能の選定

- ・市民交流機能(子育て支援機能)
  - ・文化振興機能(世界遺産ガイダンス機能)
- 候補地ごとに適した複合機能を採択

## ○基本理念(コンセプト)の設定

- ・文化施設としての役割を踏まえた視点
  - ・複合機能を踏まえた視点
- 上記視点を踏まえて新文化会館にふさわしいコンセプトを設定

# 藤原総合文化会館検討専門部会での検討

## 藤原総合文化会館検討専門部会とは

公共施設適正化推進にあたり休止した藤原総合文化会館のあり方に関する検討協議を行うための専門部会

### <昨年度までの取り組み内容>

会議	開催日	概要
第1回会議	令和元年5月	藤原総合文化会館検討専門部会の役割、藤原総合文化会館検討の経緯等 他
第2回会議	令和元年6月	藤原総合文化会館の方向性について、当該地の具体的事業内容の検討について
第3回会議	令和元年7月	専門部会の進め方について、 藤原総合文化会館解体後の跡地利用に対する市の考え方について 他
第4回会議	令和元年12月	藤原総合文化会館、周辺施設のあり方に関する意向調査の結果について
第5回会議	令和2年1月	藤原総合文化会館跡地利活用にかかる提案内容について 他
第6回会議	令和2年6月	前回会議までの振り返りについて、今後の進め方について
勉強会	令和3年11月から 令和4年1月	観光客を対象とした鬼怒川温泉駅前のあり方に関するアンケートの実施
第7回会議	令和5年3月	アンケート結果等を踏まえた勉強会における主な意見等について、 専門部会において検討を進める上での課題等の整理について 他

# 藤原総合文化会館検討専門部会での検討

## 藤原総合文化会館検討専門部会とは

公共施設適正化推進にあたり休止した藤原総合文化会館のあり方に関する検討協議を行うための専門部会

令和元年度から令和4年度まで計7回の会議で、藤原総合文化会館のあり方について合意が図られたもの

- 耐震性の観点から、藤原総合文化会館は令和2年4月以降休止する。
- 文化会館の再編に伴う、藤原総合文化会館廃止後の跡地利活用に  
あたっては、民業圧迫しないことを条件に公民連携を前提として進める。
- 藤原総合文化会館の跡地利活用にむけては、駅前全体との調和を図りつつ、  
藤原総合文化会館、図書館、旅館組合を含むエリアのあり方を検討する。
- 藤原総合文化会館の跡地利活用にむけた検討においては、観光情報機能を  
駅前に残すことを前提に議論を進める。

# 藤原総合文化会館検討専門部会での検討

令和5年度(第8回、第9回会議)において協議された内容

＜藤原総合文化会館跡地整備にむけて検討するべきポイント＞

- ①民間施設及び公共施設の一体的な整備 (既存施設の再構築)
- ②施設の有効活用に向けた市民との協働 (新たな価値の創出)
- ③周辺施設を含めたエリアマネジメントによる運営体制 (整備後の施設有効活用)

＜今後の取り組み＞

- ・文化会館跡地を含む整備検討の対象エリア内に立地する施設の再編検討に向けて関係団体との協議を進める。また、市民の憩いの場、及び観光客へ鬼怒川温泉の魅力をアピールできるような施設の整備にむけ、会議においてご意見をいただく。
- ・令和6年度より、現専門部会の再編を図り、鬼怒川温泉駅前の活性化を主として検討を進める。
- ・施設整備後の有効活用に向け、鬼怒川温泉駅前関係団体との連携強化を目指し、民間活力の導入も視野に入れ、施設の有効活用を図る。

# ○民間との協働によるサービスの最適化

## 中央公民館の移転

中央公民館(今市公民館)は建設から47年以上が経過し、建物や設備の老朽化が著しいことから、移転の検討がなされてきた。

利用者の利便性確保や、効率的な施設運営の観点から移転先を検討してきたが、このたび「イオン今市店」の一部に移転が決定された。

### <移転の理由>

- ・中央公民館の老朽化が著しく早急な対応が求められること。
- ・新規で施設を整備する場合と比べ、20年間での財政効果が期待できること。
- ・利用者に対するアンケート調査において移転に対して概ね理解が得られたこと。
- ・集客力が高い商業施設に移転することで、生涯学習推進の新たな拠点として期待されること。
- ・公共施設マネジメントの推進及びイオン今市店の継続性が期待されること。

# 今後の展開



# 今後の展開 ～公共施設マネジメント計画実行計画(第2期)の策定～

公共施設マネジメント計画(R4. 3改訂)

日光市公共施設マネジメント計画  
改訂版



策定 平成27年8月  
改訂 令和 4年3月

## 現在 公共施設マネジメント計画実行計画(第2期) 策定中

### 【基本方針】

- ①利用実態・今後の人口動態や更新費用等を見極めた個別施設の方向性の検討
- ②継続する施設の適切な施設管理手法の検討・確立し、効果検証を行う
- ③民間活力導入による施設利用促進及び運営の効率化
- ④所管を超えた横断的な取組体制を構築し公共施設マネジメントを促進する

# 今後の展開

## ～市有財産ポテンシャル調査の実施～

### 市有財産ポテンシャル調査とは

#### 【目的】

民間事業者による有効活用が期待できる市有財産を調査・分析し、優先的に活用を図るべき財産を抽出するとともに、活用ニーズのある事業者への的確に情報を伝えること。

#### 【調査内容】

民間事業者による活用が期待できる市有財産を抽出するための調査

調査の結果、活用のポテンシャルが見込まれた施設については民間事業者による利活用に向け、市として積極的な誘致を行う

#### 【想定される効果】

- ・廃止した施設については、解体費が不要となるなど、財政的視点からの効果。
- ・施設有効活用による、地域の活性化。
- ・継続する施設については、民間活力導入による、収益性の向上、及び維持管理費用の軽減。